



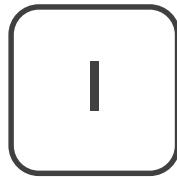
株式会社清水銀行
個人投資家さま向け
企業説明会

2026年1月29日(木)



THE SHIMIZU BANK,LTD.

東証プライム：8364



清水銀行の概要



THE SHIMIZU BANK,LTD.

清水銀行の概要

清水銀行の概要 2025年9月30日現在

創立	1928年7月1日
本店所在地	静岡県静岡市清水区富士見町2番1号
資本金	108億1,626万円
総資産	1兆7,788億円
預金残高	1兆5,841億円
貸出金残高	1兆2,697億円
店舗数	本支店・出張所79店舗
従業員数	873人
連結自己資本比率	8.74% (国内基準)
単体自己資本比率	8.58% (国内基準)
上場	東京証券取引所プライム市場 (証券コード8364)
格付	A- (日本格付研究所 長期発行体格付)

経営理念



- 社会的公共性を重んじ
健全経営をすすめる
- お客様に親しまれ、喜ばれ
役にたつ銀行をつくる
- 人間関係を尊重し
働きがいある職場をつくる

パーカス

地域を愛し、
お客さまの未来をともに考え、共創します

清水銀行グループ

- 清水ビジネスサービス株式会社
 - 清水総合メンテナンス株式会社
 - 株式会社清水地域経済研究センター
 - 清水信用保証株式会社
 - 清水リース＆カード株式会社
 - 清水総合コンピュータサービス株式会社
- 計6社



店舗ネットワーク

■本支店・出張所79店舗

(静岡県内76店舗(インターネット支店を含む)・東京都1店舗・愛知県2店舗)

■ローンセンター7拠点

(東部・富士・清水・東静岡・静岡・藤枝・浜松)



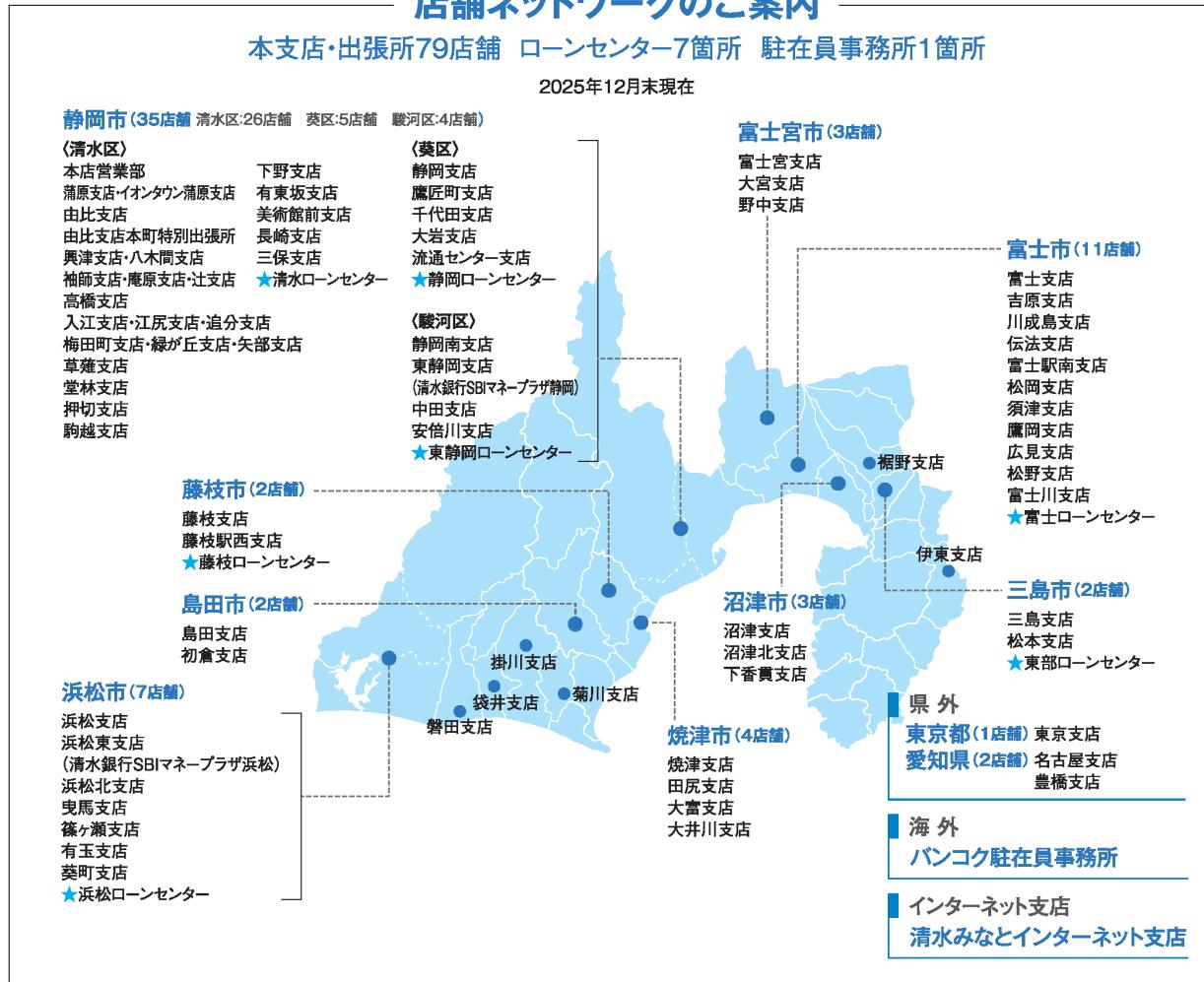
本店営業部



本町出張所



浜松支店



富士支店



三島支店



バンコク
駐在員事務所



THE SHIMIZU BANK,LTD.

II

2025年度中間期決算概要



THE SHIMIZU BANK,LTD.

決算概要（損益の状況）

(百万円)

	2024年度中間期	2025年度中間期	前期比
経常収益	11,615	13,108	1,492
資金運用収益	8,026	9,985	1,958
(うち貸出金利息)	6,327	7,877	1,550
(うち有価証券利息配当金)	1,464	1,560	95
役務取引等収益	2,547	2,378	▲ 168
その他業務収益	59	43	▲ 15
(うち国債等債券売却益)	38	27	▲ 11
その他経常収益	982	700	▲ 281
経常費用	10,078	11,015	936
資金調達費用	462	1,906	1,444
(うち預金利息)	361	1,795	1,434
役務取引等費用	591	610	18
その他業務費用	1,262	722	▲ 540
(うち国債等債券売却損)	524	219	▲ 304
営業経費	7,704	7,158	▲ 546
その他経常費用	57	617	560
(うち一般貸倒引当金繰入額)	—	▲ 14	▲ 14
経常利益	1,537	2,093	555
中間期純利益	1,370	1,693	323
コア業務純益※	984	2,108	1,124

経常収益の内訳

【資金運用収益】

貸出金利息、有価証券利息配当金、預け金利息ほか

【役務取引等収益】

受入為替手数料、その他の受入手数料、法人役務収益、個人役務収益ほか

【その他業務収益】

国債等債券売却益ほか

【その他経常収益】

株式等売却益、金銭の信託運用益ほか

経常費用の内訳

【資金調達費用】

預金利息、譲渡性預金利息、コールマネー利息ほか

【役務取引等費用】

支払為替手数料、その他の支払手数料

【その他業務費用】

国債等債券売却損、外国為替売買損ほか

【営業経費】

人件費、物件費、税金

【その他経常費用】

一般貸倒引当金繰入額、個別貸倒引当金繰入額、株式等売却損ほか

※コア業務純益

資金運用収益+役務取引等収益+その他業務収益-資金調達費用-役務取引等費用-その他業務費用-営業経費-国債等債権損益

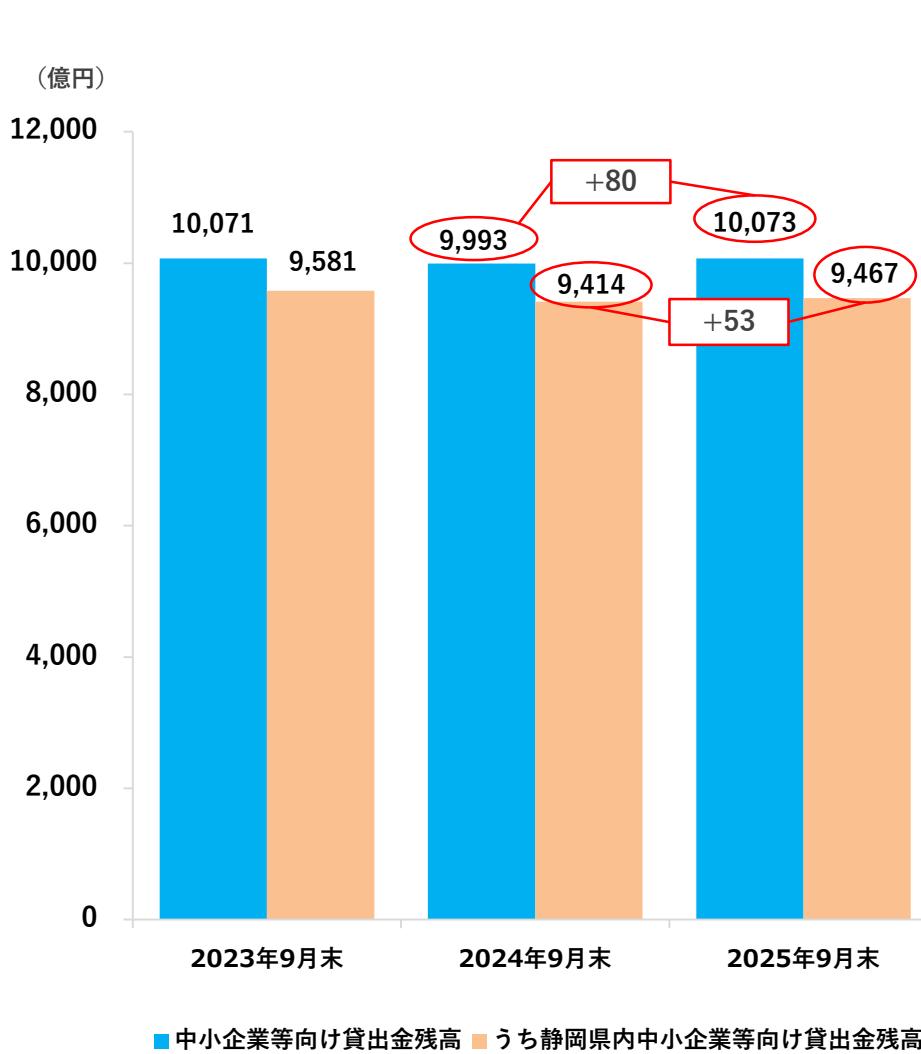
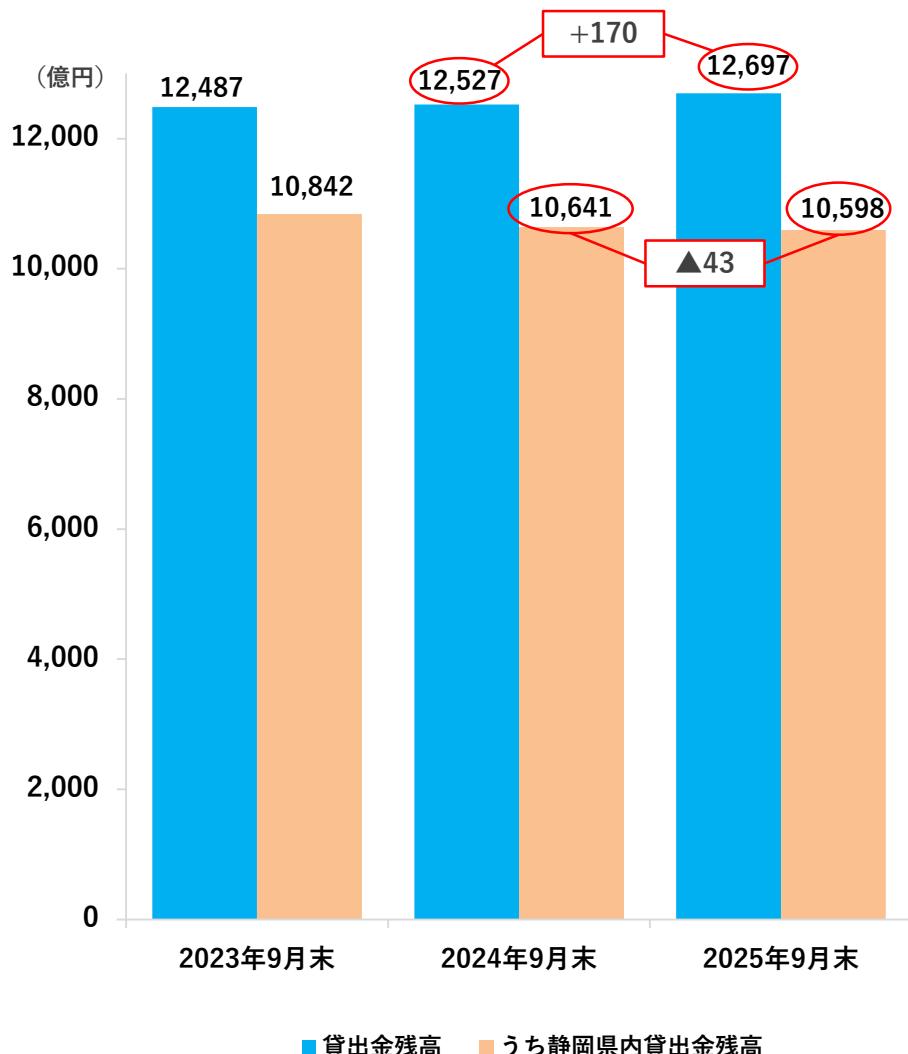


THE SHIMIZU BANK,LTD.

決算概要（貸出金）

貸出金残高（末残）

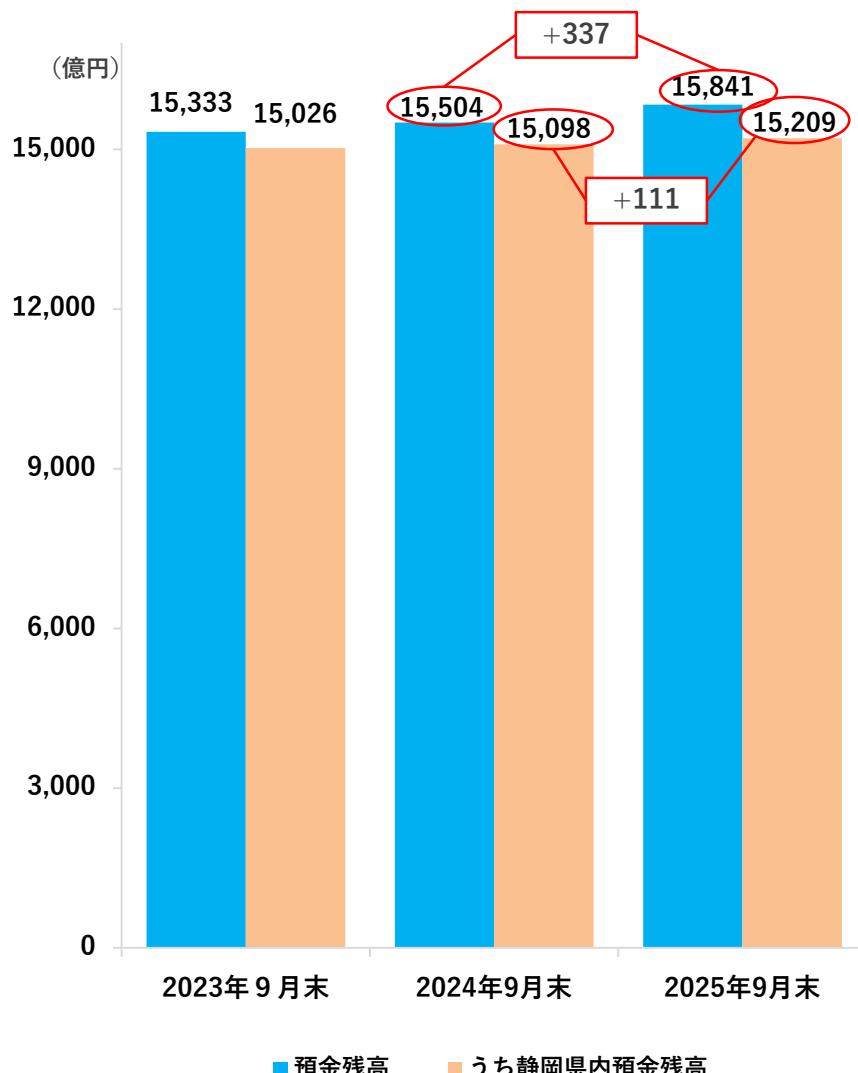
中小企業等向け貸出金残高（末残）



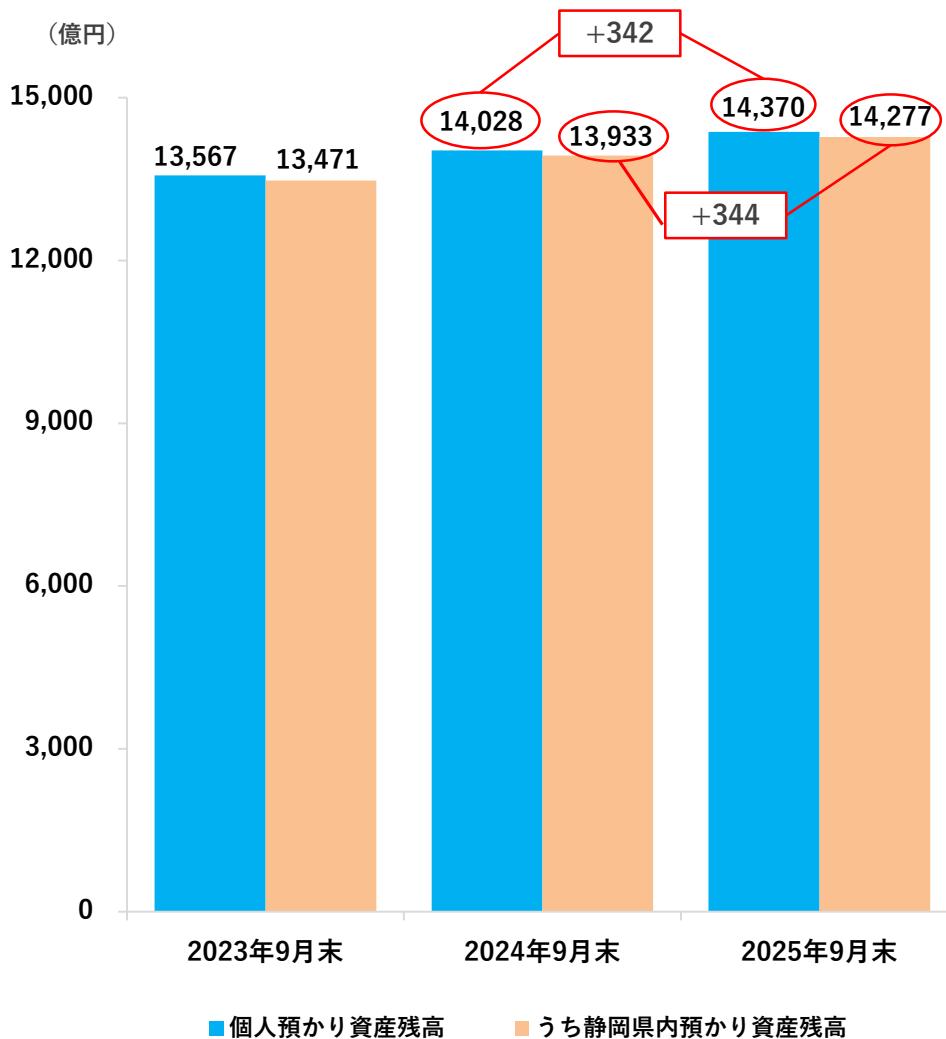
THE SHIMIZU BANK,LTD.

決算概要（預金・預かり資産）

預金残高（末残）



個人預かり資産残高（末残）

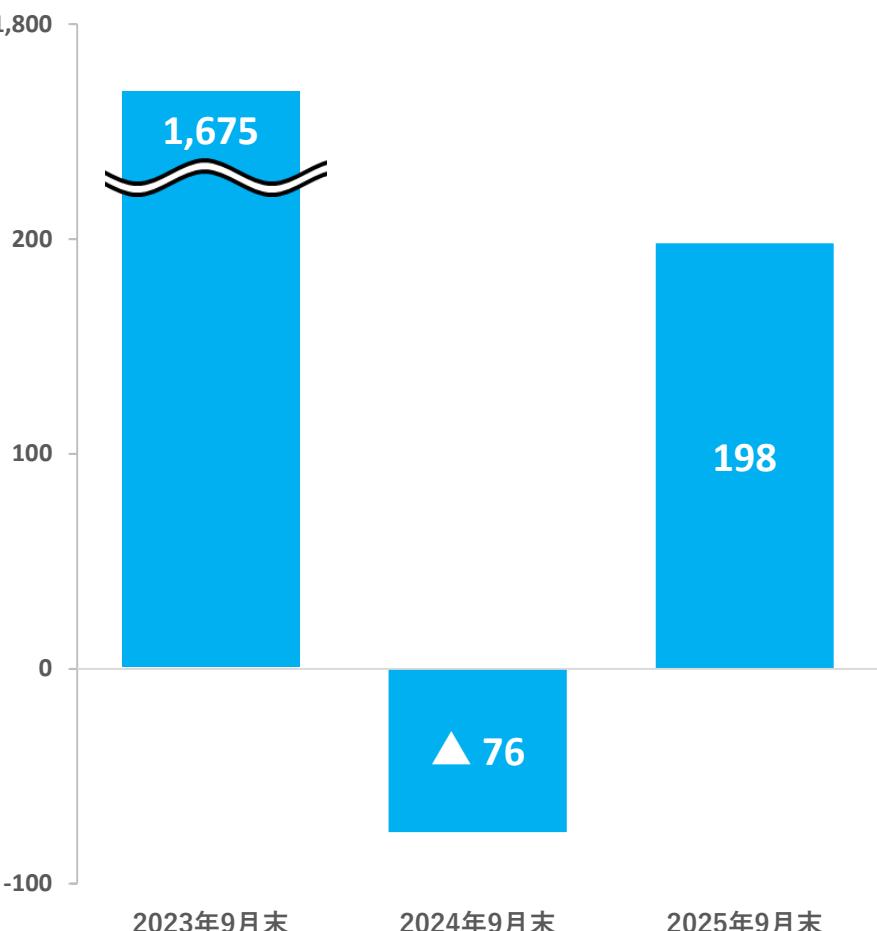


THE SHIMIZU BANK,LTD.

決算概要（与信関係費用・自己資本比率）

与信関係費用

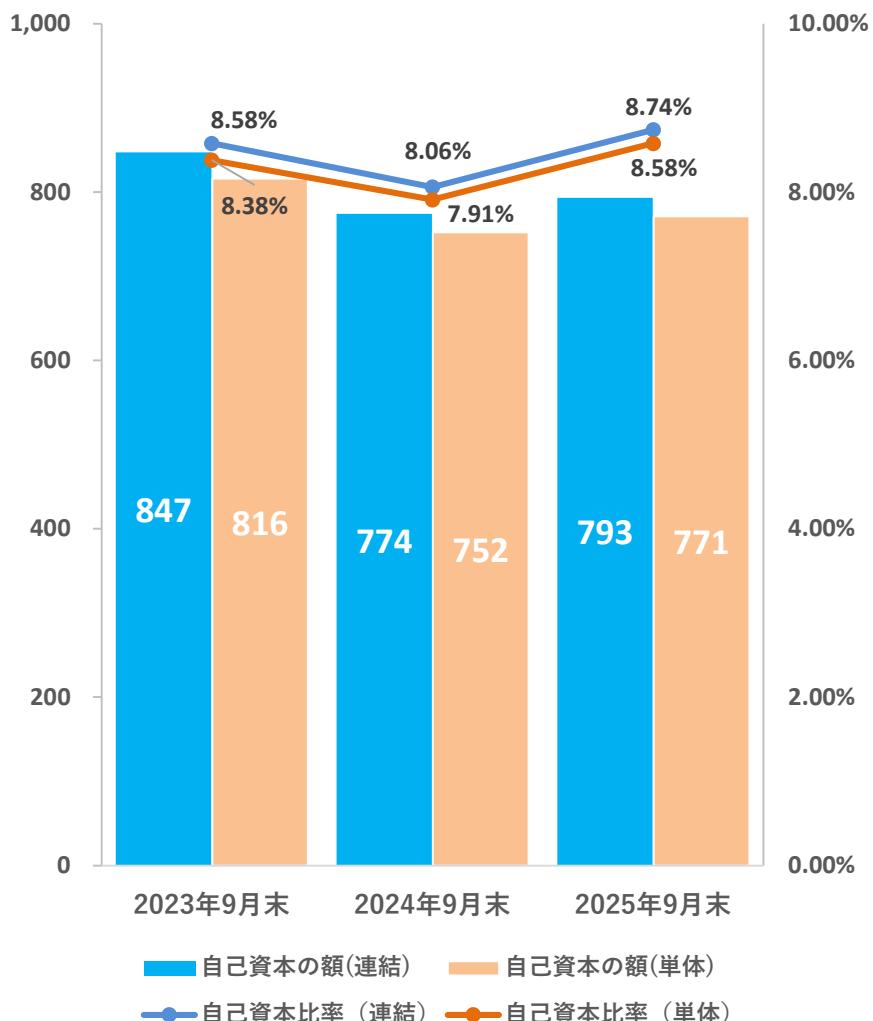
(百万円)



与信関係費用 = 一般貸倒引当金繰入額 + 不良債権処理額 - 貸倒引当金戻入益

自己資本比率

(億円)



THE SHIMIZU BANK,LTD.

III

清水銀行の取り組み



THE SHIMIZU BANK, LTD.

第28次中期経営計画（位置付け）

第28次中期経営計画は、創立100周年に向けた2ndフェーズとして、1stフェーズ（第27次中期経営計画）で底上げを図った収益基盤の維持・拡大を図る重要な3年間として位置づけた

経営理念

パーカス

「地域を愛し、お客様の未来をともに考え、共創します」



創立100周年

第29次中期経営計画の策定に向け
25名のプロジェクトチームを組成

ZENSHIN
～架け橋を築く～

<基本方針>

人財活力の最大化

お客様本位の追求

経営基盤の強化

進化×深化×真価

<基本方針>

①人的資本の充実

②ソリューション営業の高度化

③サステナビリティ経営の実践

SHINKA
～紼をつむぐ～

2028年7月
創立100周年に向けたありたい姿
MISSION(企業が果たすべき責務)

「組織を流れる改革精神と、組織を支える全員の力を結集し、地域の発展と、当行の永続性を確保する。」

VALUE(組織共通の価値観)

「あなたは、私のことを見ていてくれる、わかってくれる、そして、願いを叶えてくれる。清水銀行は、こんな銀行でありたい。」

VISION (将来のありたい姿)

存在意義の發揮

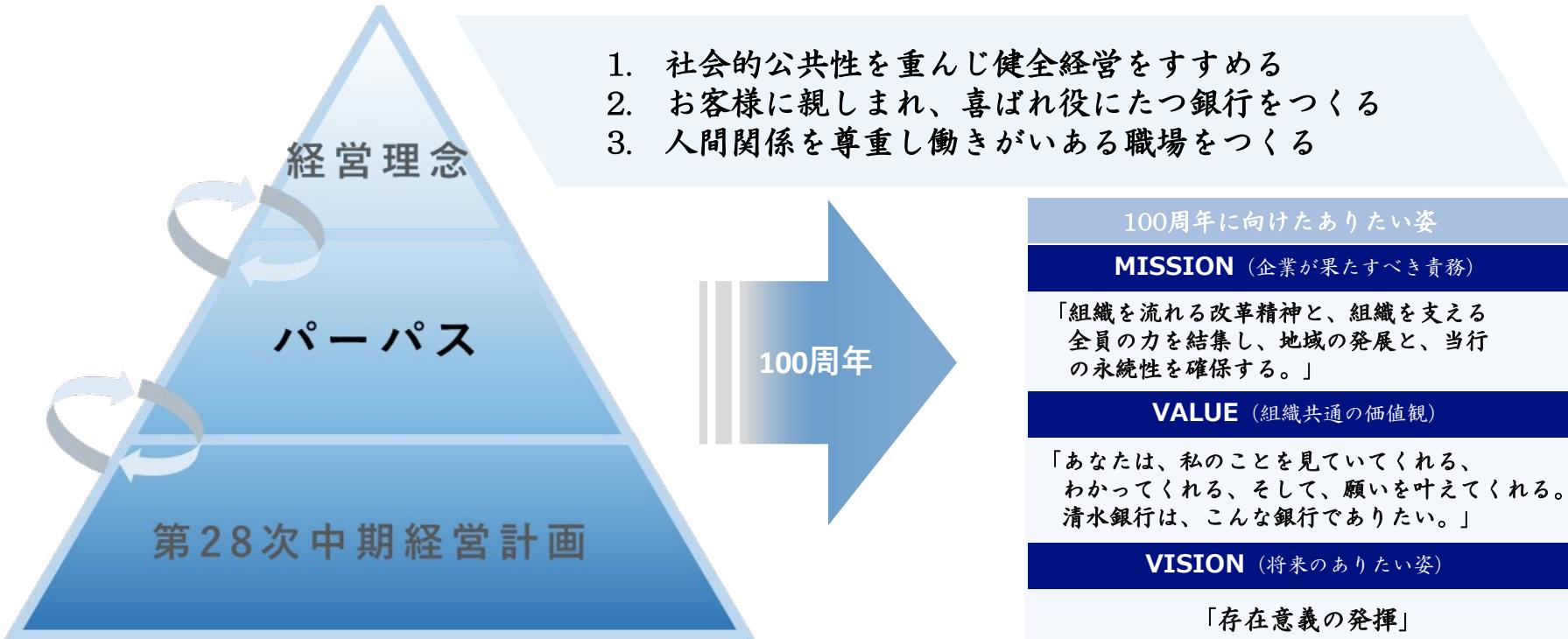


THE SHIMIZU BANK,LTD.

地域を愛し、お客様の未来をともに考え、共創します

<コンセプト>

静岡県を主要営業基盤とする清水銀行が、お客様の過去から現在までをよく知ったうえで、一緒になってお客様のサステナブルな未来を考え抜き、地域・お客様の未来をともに創っていくという思いを込めています。



<制定理由・目的>

社会全体がカーボンニュートラルを目指すなかで、企業利益の追求のみならず、人や環境に与える影響を考慮した活動や戦略が求められ、サステナビリティへの意識が高まっています。また、コロナ禍により、社会・生活様式や経済環境が様変わりし、外部環境が大きく変化しています。このような変化の激しい時代だからこそ、当行の社会における存在意義を改めて見つめなおし、これからもお客様と共存共栄し、持続的な発展を遂げるため、普遍的な経営理念と経営計画を結ぶ役割として、パーサス（当行が地域社会に存在している「意義」、未来に向けての「志」）を制定しました。パーサスを通して、従業員一人ひとりのやりがいや、働きがいにつなげるとともに、「考え方力」、「苦難に耐え抜く力」、「挑戦し続ける力」の原動力にしていきます。

SHINKA

～絆をつむぐ～

名 称

計画期間

2023年4月1日～2026年3月31日（3年間）

計数目標	2025年度末目標		2025年度中間期実績	評価	
	①	②	③		
	コア業務純益 40億円以上	当期純利益 25億円以上	県内中小企業等向け貸出金残高 1兆円以上	21億円	○
				16億円	○
				9,467億円	△
	連結自己資本比率 8%以上			8.74%	◎



基本方針の連関性

人的資本（従業員）
への投資を加速

<経営理念の具現化>

人間関係を尊重し働きがいある職場をつくる

人的資本の充実

<るべき姿>

全従業員を資本と捉え、一人ひとりの成長と働きがいを組織的にサポートすることで、組織全体の「力」が向上。

従業員との絆をつむぐ

清水銀行のパーカス

地域を愛し、お客様の未来をともに考え、共創します

お客様との絆をつむぐ

<経営理念の具現化>

お客様に親しまれ、喜ばれ役にたつ銀行をつくる

ソリューション営業の高度化

<るべき姿>

お客様のことをよく知ったうえで、課題やビジョンを共有し、
お客様のニーズに適したソリューションを提供。

地域社会・株主との絆をつむぐ

<経営理念の具現化>

社会的公共性を重んじ健全経営をすすめる

サステナビリティ経営の実践

<るべき姿>

効率性の高い業務運営と安定した経営基盤を維持し、
地域の環境・社会・経済の持続的な発展に貢献。



人的資本の充実

パーカス

「地域を愛し、お客様の未来をともに考え、共創します」

ベースアップ

- 2024年10月、全行員へ3.11%のベースアップ
- 2025年10月、全行員へ1万円のベースアップ
- 2026年4月、更なるベースアップを検討

ダイバーシティ & インクルージョン

- 女性活躍
- ビジネスカジュアルの導入

人的資本の充実

人事制度の改定

- 短時間勤務制度の拡大
- 再雇用年齢上限の引き上げ
- 給与テーブルの見直し

熟練したスキルを持つ従業員の確保
行員一人ひとりの成長と
働きがいを向上

従業員への投資を加速することで、「人的資本の充実」が図られ、「ソリューション営業の高度化」「サステナビリティ経営の実践」が達成される好循環を生み出す

キャリア・リファラル採用の導入

健康経営の実践

- 新卒、キャリア、スタッフの採用を進め、多様な人財が活躍する組織を目指す

<採用者数>

制度制度	今年度	累計
リファラル採用	2名	10名
キャリア採用	4名	10名

- 従業員が最大限に力を発揮できる職場環境整備を進め、従業員エンゲージメント、ウェルビーイングの向上を図り、企業価値向上につなげる



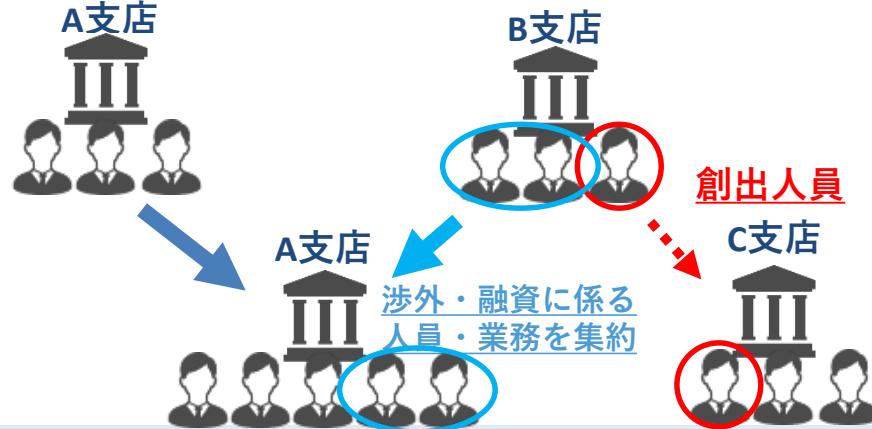
THE SHIMIZU BANK,LTD.

ソリューション営業の高度化

ソリューションの『量的拡大』と『質的向上』

営業体制の変更

融資・渉外の人員および業務をブロック
店に集約し、情報やノウハウを共有 → 2025年10月より
6店舗実施



非対面チャネルの拡充

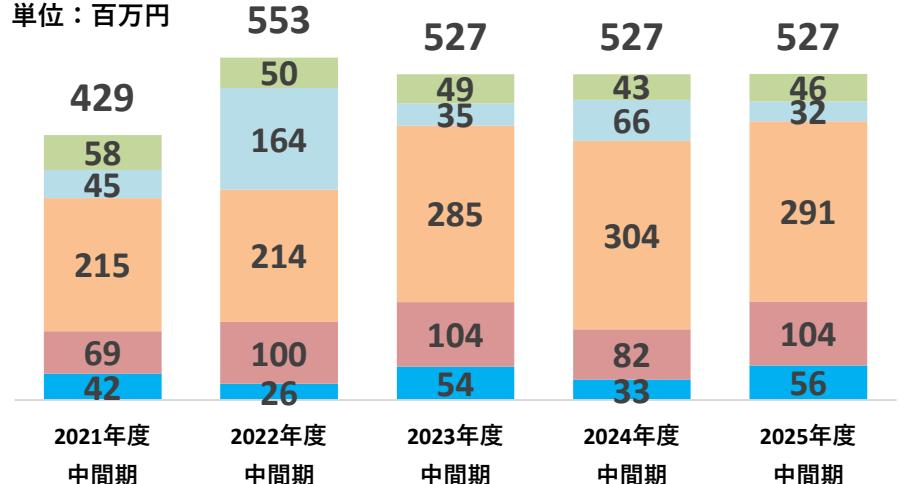
**2025年9月24日清水銀行アプリを全面リニューアル
総合的な刷新により、個人向け非対面チャネルのサービス
を拡充**

顧客接点の増加による リテール部門の収益獲得機会を創出

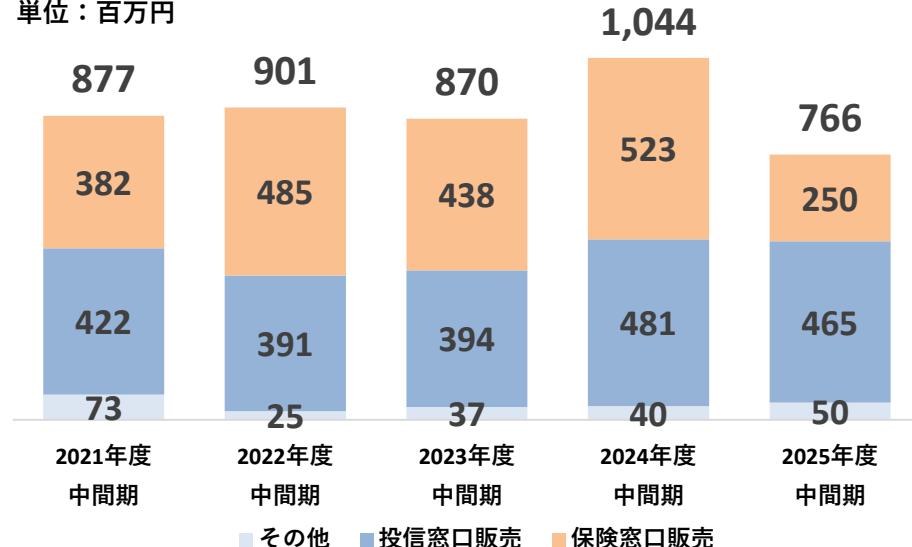


アプリダウンロード数
15,000件突破

单位：百万円



单位：百万円





清水銀行



SBI Holdings

事業承継・M&A

SBI 証券

金融商品仲介

SBI マネープラザ

ファンド出資を通じた情報収集

SBI Investment

企業型DC

DCP

全国金融機関初

ファイナンス業務

SBI 新生銀行

DX

SBI NEO FINANCIAL SERVICES

2017年10月 SBIマネープラザ浜松の開設

2020年 2月 SBIホールディングス(株)との資本業務提携

2020年 3月 SBIマネープラザ静岡の開設 2店舗目の共同店舗も全国初

2020年 5月 取引先のデジタル化に関するサービスにおける連携

2020年 7月 市場運用の高度化に向けた連携を開始

2020年 9月 M&A業務における提携開始

2020年 9月 SBI4&5投資事業有限責任組合B1へ出資

2022年 3月 SBI DXデータベースの取扱開始

2022年10月 企業型DCの顧客紹介サービスを開始

2023年 9月 SBI新生銀行と共同アレンジのシンジケートローン組成

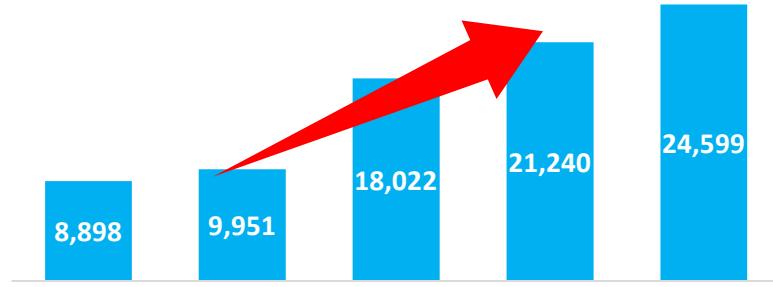
2023年11月 SBI新生銀行に当行行員を研修派遣

2025年 1月 清水みなとSBI地域共創ファンドへの出資

両社の経営の独立性を尊重しながら関係性を強化するため相互に株式を保有。SBIホールディングス(株)は、発行済普通株式数の3%を上限に当行株式を保有している。

清水銀行SBIマネープラザの預かり資産残高

単位：百万円



THE SHIMIZU BANK,LTD.

サステナビリティ経営の実践

サステナブル投融資への取り組み

対象とするサステナブル投融資商品

- | | |
|-------------------------|-------------------------------|
| ● 地方創生私募債「しづおかの未来」 | ● しみずサステナビリティ・リンク・ローン |
| ● しみず地方創生ローン(CLO) | ● 地域ESG(脱炭素)融資促進利子補給事業 |
| ● しみずESGローン | ● SDGs債(グリーンボンド・ソーシャルボンド等投資) |
| ● しみずグリーンローン | ● しみずSDGsビジネスローン |
| ● しみずポジティブ・インパクト・ファイナンス | ● 静岡県信用保証協会「SDGs支援保証」「GX推進保証」 |

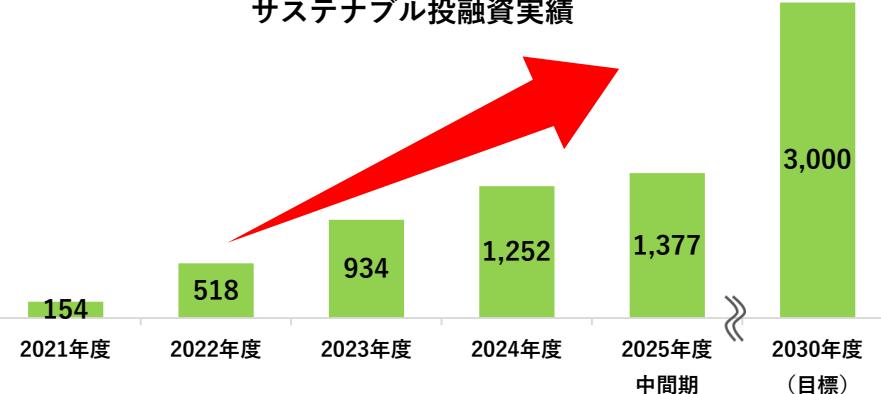
順次、商品ラインアップを拡充中

サステナブル投融資金額

3,000億円（2021年度～2030年度累計）

単位：億円

サステナブル投融資実績



温室効果ガス排出量削減に向けた取り組み

CO₂フリー電気「静岡Greenでんき」の導入

2024年度削減効果 1,598t-CO₂



オンラインPPA（電力購入契約）による
支店屋上への太陽光発電設備の設置

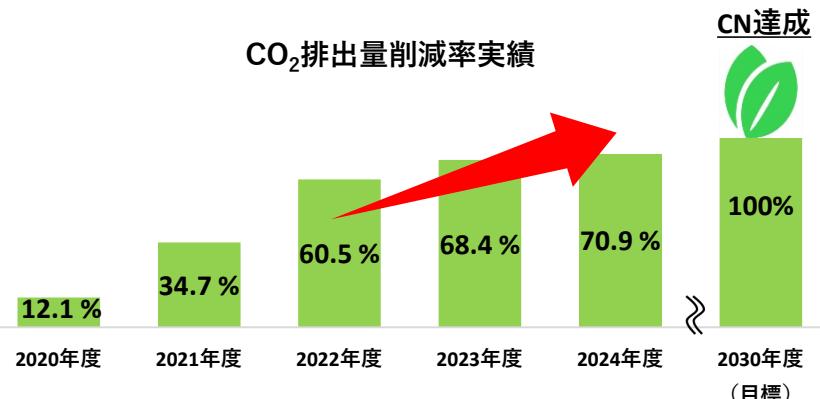
2024年度削減効果 11t-CO₂



温室効果ガス排出量削減目標

2030年度にカーボンニュートラル達成

CO₂排出量削減率実績

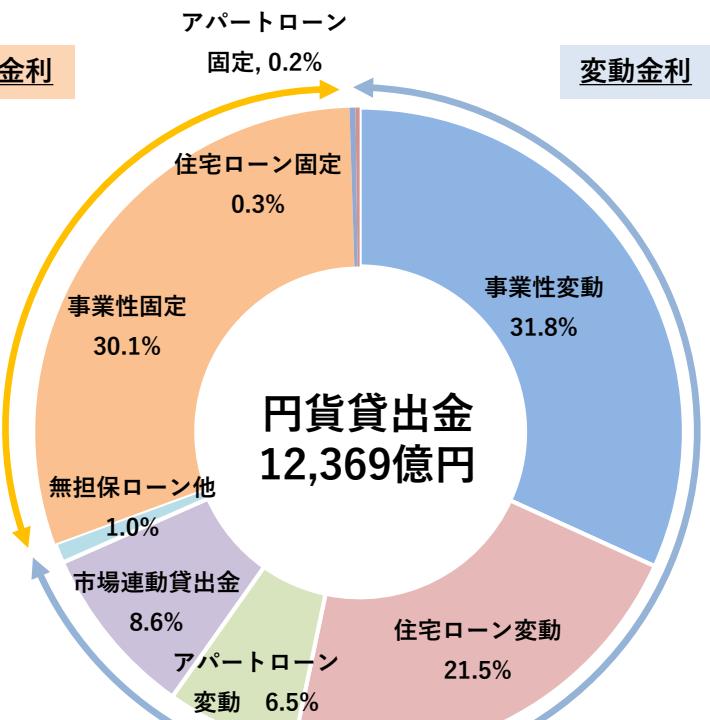


企業価値向上に向けた取り組み

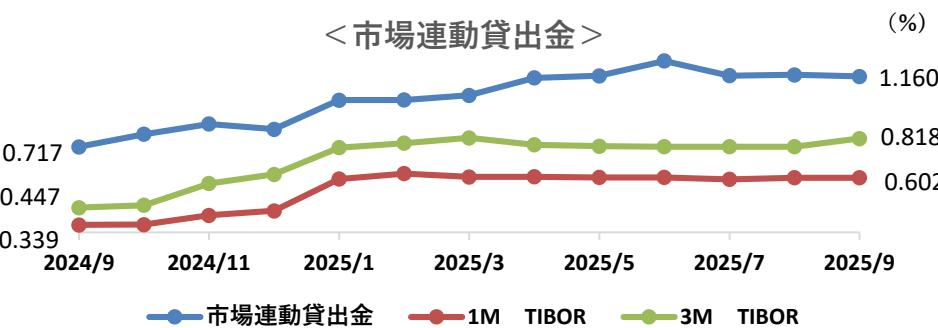
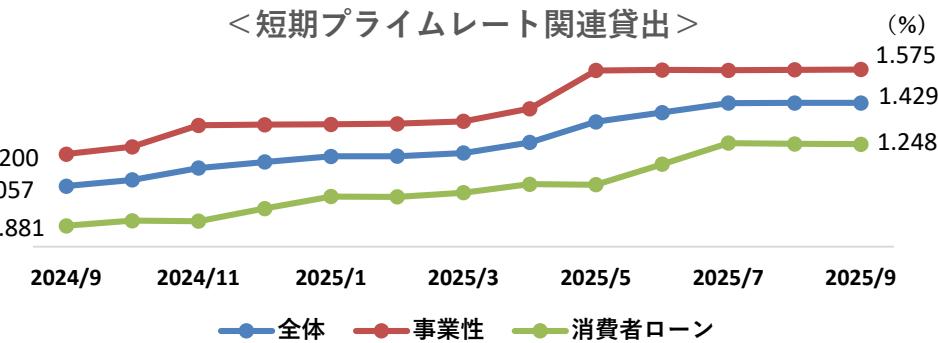
金利上昇による影響

- 貸出金における変動金利割合は68.4%
- 2025年9月の短プラ引上げの追隨率は約93%

円貨貸出金の構成



貸出金利の推移



THE SHIMIZU BANK, LTD.

企業価値向上に向けた取り組み

株主還元

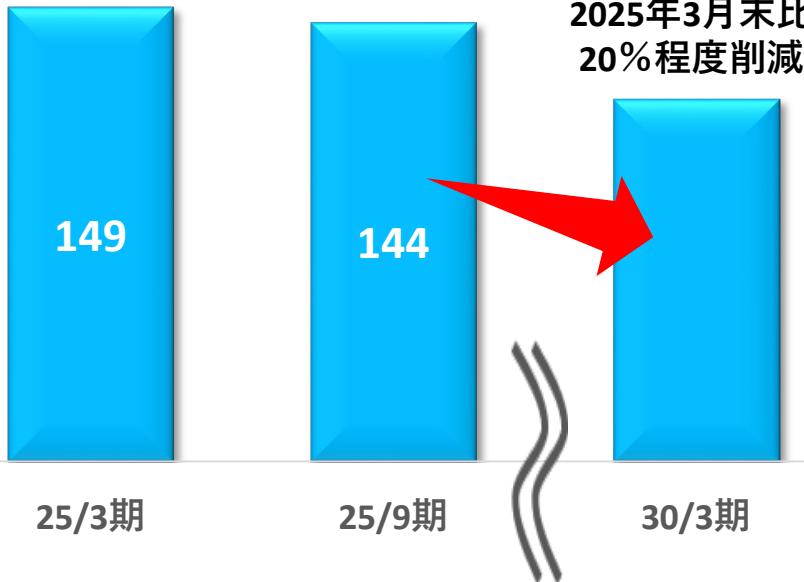
- 経営体質の強化と経営環境変化への備えのため、内部留保を確保するとともに、安定的な配当を継続することを目指す。
- 26/3期の1株当たりの配当金については年間60円（中間30円、期末30円）を予定。

	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期 (予想)
1株あたり 年間配当金 (うち中間)	60円 (30円)	60円 (30円)	60円 (30円)	55円 (30円)	60円 (30円)	60円 (30円)
配当金額	695 百万円	695 百万円	693 百万円	635 百万円	691 百万円	-
配当性向 (単体)	31.47 %	31.04 %	54.84 %	-	37.96 %	-
自己株式 取得額	-	-	99 百万円	-	99 百万円	-
総還元性向 (単体)	31.47 %	31.04 %	62.69 %	-	43.94 %	-
ROE(単体)	2.73%	2.78%	1.70%	-4.27%	2.56%	-

政策保有株式の縮減

- 経済合理性の評価ならびに資本コスト対比の運用評価（定量）、保有目的の評価（定性）による総合評価にて保有意義を検証
- 政策保有株式について、2030年3月末までに、簿価ベースで2025年3月末比20%程度削減持ち合い株式の縮減を進める。

政策保有株式
簿価ベース
(億円)

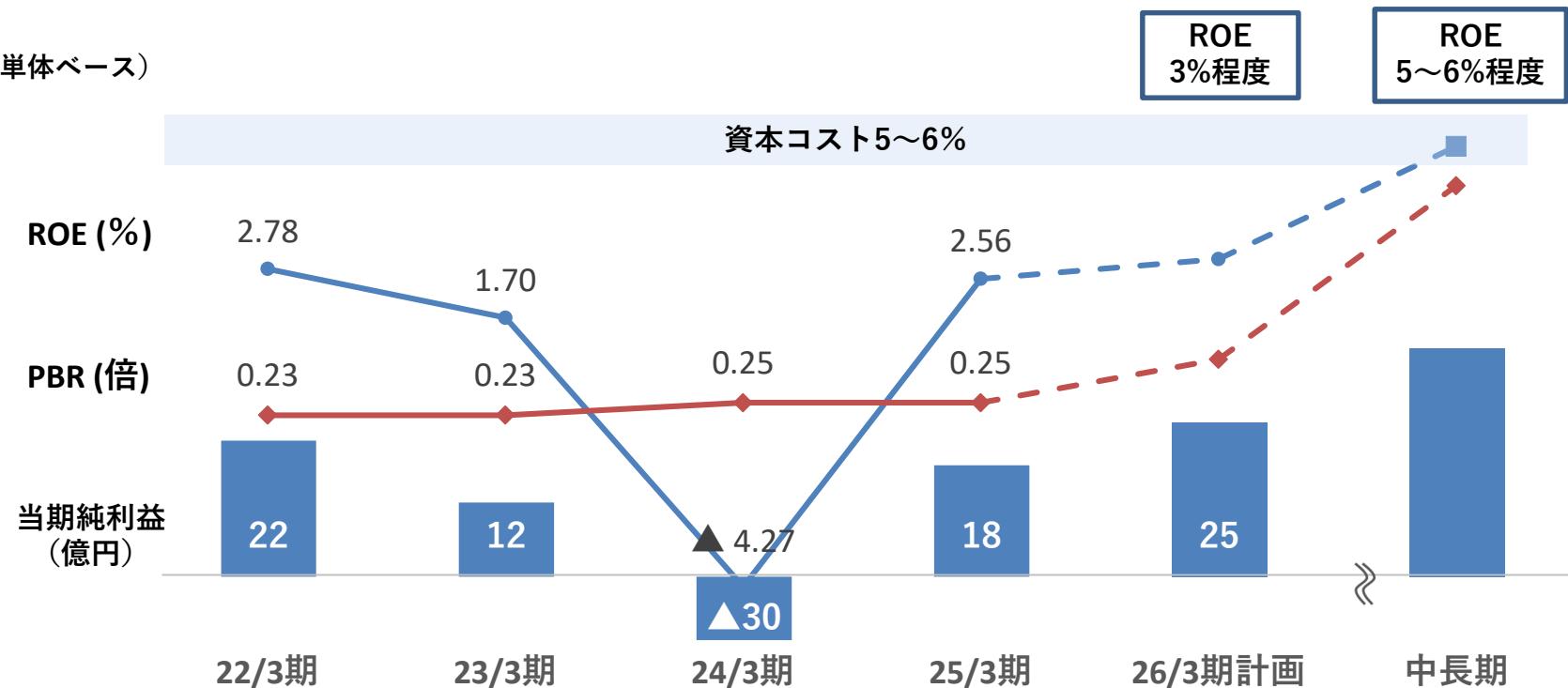


資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

当行のROE/PBR（現状分析）

- 資本資産価格モデル（CAPM）による当行の株主資本コストは、概ね5~6%
- 中期経営計画最終年度目標は当期純利益25億円、ROE 3%程度
- 創立100周年に向けた、最終フェーズとなる第29次中期経営計画策定に向けたプロジェクトも始動
- 次期中期経営計画公表時に、ROE目標をアップデート予定

（単体ベース）



株式関連情報

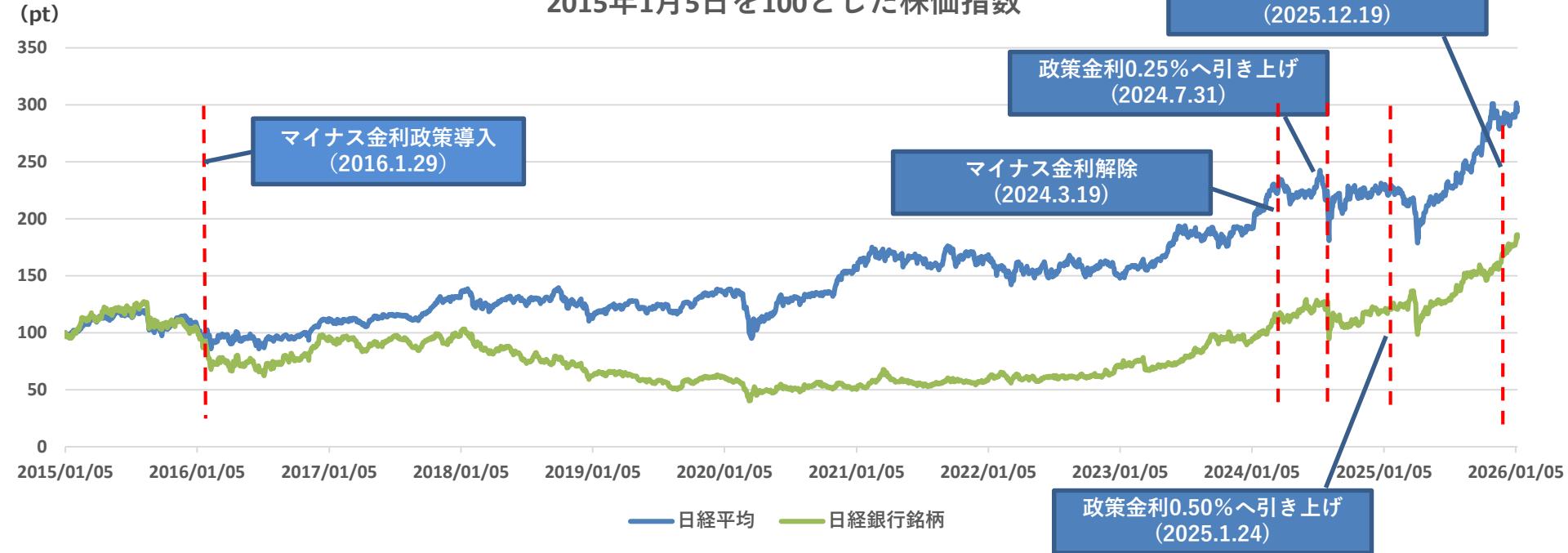
2015年1月5日を100とした株価指數

政策金利0.75%へ引き上げ
(2025.12.19)

政策金利0.25%へ引き上げ
(2024.7.31)

マイナス金利解除
(2024.3.19)

政策金利0.50%へ引き上げ
(2025.1.24)



当行株価

当行株価指數（2026年1月9日現在）

株価

2,511円



THE SHIZUOKA BANK, LTD.

事前に株式会社清水銀行の許可を書面で得ることなく、
本資料を転写・複製し、又は第三者に配布することを禁止いたします。
本資料は情報の提供のみを目的として作成されたものであり、
特定の証券の売買を勧誘するものではありません。

